

河川事業

しりべつ 尻別川直轄河川改修事業

再評価(報告)資料

令和6年度
北海道開発局

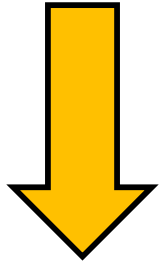
目 次

- 1. 事業再評価の経緯 1
- 2. 尻別川水系河川整備計画(変更のポイント)等...4

1. 事業再評価の経緯（尻別川直轄河川改修事業）

〈前回〉

- ・ 令和3年12月1日 第5回北海道開発局事業審議委員会にて、尻別川直轄河川改修事業の再評価を【**審議**】



〈今回〉

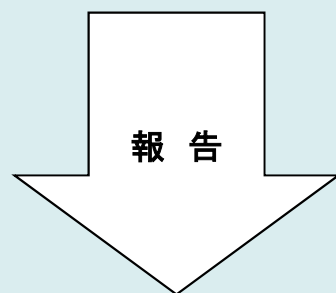
- ・ 令和5年10月～令和6年2月 近年の出水や気候変動の影響等を踏まえ、河川法に基づき学識経験者等から構成される委員会（尻別川流域委員会）において、尻別川水系河川整備計画の変更を実施。その中で、河川事業（尻別川直轄河川改修事業）の再評価を【**審議**】。その後、令和6年3月に河川整備計画を変更
- ・ 令和6年11月北海道開発局事業審議委員会に審議の結果を【**報告**】

事業再評価の実施について

(国土交通省所管公共事業の再評価実施要領)

第4の1 再評価の実施手続

(4) 河川事業、ダム事業については、河川法に基づき、学識経験者等から構成される委員会等での審議を経て、河川整備計画の策定・変更を行った場合には、再評価の手続きが行われたものとして位置付けるものとする。



審議の視点

- I. 事業の必要性等に関する視点
 - 1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化
 - 2. 事業の投資効果
 - 3. 事業の進捗状況
- II. 事業の進捗の見込みの視点
- III. コスト縮減や代替案立案などの可能性の視点

(河川及びダム事業の再評価実施要領細目)

第6 事業評価監視委員会

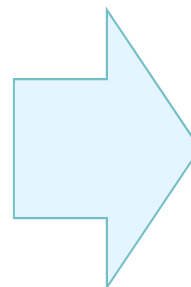
実施要領第4の1(4)又は第6の6の規定に基づいて審議が行われた場合には、その結果を事業評価監視委員会に報告するものとする。

尻別川流域委員会

令和5年10月～令和6年2月

- ※学識経験者等から構成される委員会
- ※河川整備計画に位置付けられる事業の変更(尻別川)
- ※尻別川直轄河川改修事業の再評価

審議



報告

北海道開発局
事業審議委員会
令和6年11月

再評価実施要領(第4-1(4))

以降、尻別川流域員会関係資料

2. 尻別川水系河川整備計画(変更のポイント)

・平成22年4月に策定した尻別川水系河川整備計画について、以下の点から見直しを行い、令和6年3月に変更しました。

① 近年の大規模洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備

～将来の気候変動に伴う降雨量増大を考慮した河川整備計画の見直し～

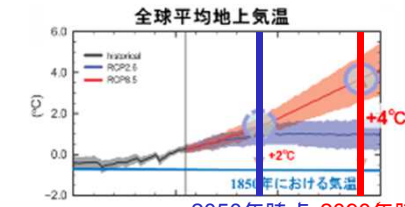
<地域区分毎の降雨量変化倍率>

地域区分	2℃上昇	4℃上昇	短時間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.5
九州北西部	1.1	1.4	1.5
その他(沖縄含む)地域	1.1	1.2	1.3

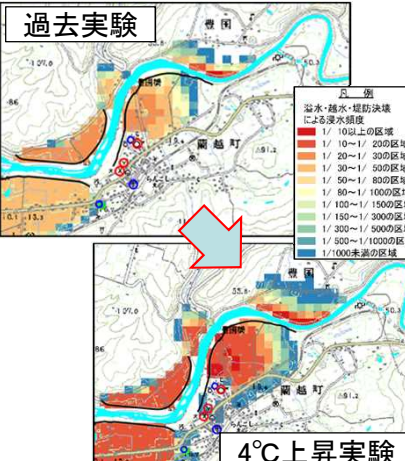
・気候変動の影響により、2050年頃には各シナリオとも気温が2℃程度上昇することが予測されています。

・また、今世紀末には最も高い温室効果ガス濃度のシナリオ(RCP8.5)で4℃上昇が予測されています。

・北海道では2℃上昇時に降雨量が1.15倍になることが試算されています。



2050年時点 2090年時点



過去実験 4℃上昇実験



H30. 7浸水状況



R4. 8浸水状況

② 流域治水への転換を踏まえた治水対策(流域治水の取組推進)

～ハード対策のみならず、ソフト対策や流域対策など、あらゆる関係者により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換～

気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、「流域治水」への転換を推進し、洪水等による災害被害の軽減を図ります。

流域治水の3つの柱

- 被害をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策



流域治水 イメージ

③ 第9期北海道総合開発計画の目標、後志地域の将来像の視点

～第9期北海道総合開発計画の目標～



- 目標1 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道」
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～
- 目標2 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造」
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～

～後志地域の将来像の実現「地域づくりビジョン」を踏まえた視点～

食

農林水産業の持続的発展・ブランド化推進

- ・「らんこし米」等ブランド強化に必要な、「清流日本一」尻別川の良い水資源の保全



下流域に広がる稲作地帯

米+グランプリ in らんこし

観光

国際的観光リゾートエリアとしての持続可能な観光地づくり

- ・観光資源を利用した広域的なツーリズム
- ・国際観光リゾートエリアの将来像を踏まえた河川防災情報の発信
- ・外国人に対する河川利用への配慮



国際的自転車レース

カヌー利用

地域の将来像の基盤となる、気候変動を踏まえた流域の安全度確保

流域特性を生かした流域治水の推進

地域を支える豊かで良質な水資源の保全と河川空間の創出・利用

環境・景観

流域全体の相互協力による環境・景観の保全・創出

- ・尻別川統一条例との連携
- ・北海道景観計画との適合
- ・景観を生かした地域づくりとの連携



カワヤツメの産卵床

川の自然観察会

脱炭素

ゼロカーボン北海道の実現

- ・森林整備や農地の発展的保全等、グリーンインフラを生かした流域治水の推進



樹木伐開工事

伐開した樹木のチップ化

3. 対応方針(案)

○尻別川水系河川整備計画の変更に伴い、以下の3つの視点で再評価を行いました。

①事業の必要性等に関する視点

- ・ 氾濫のおそれがある区域を含む市町村の総人口は、平成22年と比べるとやや減少していますが、世帯数はほぼ横ばい、65歳以上の人口比率は増加しています。
- ・ 尻別川流域は、下流部に蘭越町市街地を抱え、国内有数の食料生産地となっています。
- ・ 気候変動の影響により、水害リスクの増大が懸念されることから、気候変動後（2℃上昇時）の状況においても平成22年4月に策定した尻別川水系河川整備計画の目標と同程度の治水安全度を確保できる流量を安全に流下させることを目標に、河川改修事業を進めていく必要があります。
- ・ 当該事業の費用対効果は1.4となっています。

②事業進捗の見込みの視点

- ・ 河道掘削等の整備を着実に実施しており、引き続き、整備をすすめます。
- ・ 今後実施する整備についても、着実に進めることができると考えています。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・ 引き続き、地方公共団体とも連携しながら、コスト縮減に努めます。
- ・ 代替案等の可能性については、河道掘削案のほか複数の治水対策を検討し、コストや社会的影響等の観点から、河道掘削案が優位と考えています。

以上のことから、事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、尻別川流域委員会で事業継続が妥当であると審議されましたことをご報告いたします。